

My GEO STORY vol.3

おもてなしと語り継ぎ

かんばらさとし

鎌原郷司さん「鎌原観音堂奉仕会」会長

鎌原は、235年前の浅間山噴火に伴う土石なだれで477名が犠牲となりました。さらになだれは周辺の集落を巻き込んで吾妻川を流れ下り、利根川を大洪水にして江戸まで至る多くの惨禍を引き起こしました。その災害でわずかに93名の村人が生き残り、その後の復興の中心となったのが鎌原観音堂です。昭和54年ころ観音堂周辺の学術発掘調査が行われ、このことがクローズアップされました。大勢の参拝者が来訪してくれるようになり、地元として「おもてなし」をしようと立ち上がったのが奉仕会です。

今もなおこのような大災害を奇跡のように生き延び、復興を遂げたこの場所に何かを感じる人々がおられ、参拝者は途絶えません。日本中でいろいろな災害があつて後世の子どもたちに災害を語り伝えていこうと思つている方が訪れます。数年で記憶が薄れ、忘れ去られてしまうと、危機感をもたれています。観音堂を中心にした行事や廻り念仏の浅間山噴火大和讃などの伝承にびっくりされ、伝承することの大切さを感じていかれます。

奉仕会としては、できる限り伝承していきたいと考えております。どうぞ鎌原観音堂にお越しください。奉仕会員一同お待ちしております。

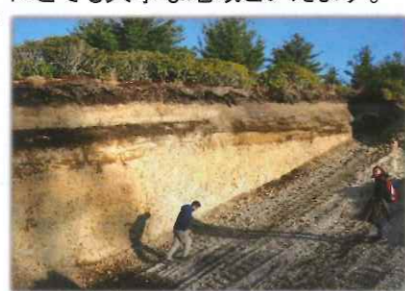


ジオジオ豆知識 vol.3

大地・生態系・人の営みをつなぐ土壌

あさの まき
解説：浅野真希助教
(筑波大学生命環境系)

浅間園から浅間山を見上げると、標高の低いほうから順にミズナラ、アカマツ、カラマツなどが、場所によってはヤシャブシやナナカマドが帯状に分布しています。さらに高い標高には鬼押し出し溶岩が黒々と突き出して樹木はなくなり、地衣類やガンコウランなどのカーペット状植物が溶岩上を覆っています。この植物の分布には、幾度にもわたる浅間山の噴火でできた、色々な種類の土壌が関わっている可能性があります。また、浅間山北麓に広がるキャベツ畑は、まさにジオの恵みと、人々のたゆまぬ努力が作り上げた景観といえますね。これらの火山灰からできた土壌は「黒ボク土」という名前があります(写真1)。黒ボク土の「ボク」は、踏むと柔らかく、ボクボクと音がすることから名づけられたといわれています。なぜ、どのくらいの時間で、このように柔らかく、真っ黒な土壌になるのか、実はまだよくわかっていません。浅間山北麓は、このような黒ボク土のナゾを解き明かすためにとても大事な地域といえます。



写真上：埋没黒ボク土が観察できる露頭(群馬坂)



写真右：黒ボク土の土壌断面(群馬坂)



あさまびと

Asama - bito

2018春号

Vol.04



浅間山北麓の春

浅間山北麓の春は、黄色の福寿草から咲き始め、フキノトウ(じゃぼーじ)が顔を出し、カタクリの花が朝日に照らされ、白いアズマイチゲが林の縁に咲いてきます。草花の芽吹きが一気に訪れます。シャクナゲ、レンゲツツジなど高原の植物が咲き誇ります。ハイキングやトレッキングをしているとこれらの自然豊かな仲間達に出会うことができます。空気がおいしく、気持ちも晴れ晴れしてきます。夜の星の輝きも最高です。浅間山北麓は、素晴らしい景観がまるごと楽しめ、そして、いっぱい感動できる自然に恵まれたところになります。浅間山には「逆さ馬」と呼ばれる雪形が現れてきます。里の人は、この「逆さ馬」を見ながら畑仕事を始めます。

平成29年度の活動より



長野原高校初の浅間園・浅間火山博物館で行なう火山・防災学習



鎌原観音堂・孺恋郷土資料館にて災害・復興学習を行なう孺恋中学校生徒



男鹿半島・大湯ジオパークにて開催された日本ジオパーク全国大会2017



浅間園の遊歩道をガイド付きでスノーシューを履き散策するジオツアー

行ってみよう!



- 3/18・25(日) ふるさとセミナー 長野原町山村開発センター
- 5/ 2(水) 長野原高校ジオ学習 浅間園
- 5/19(土) ジオツーリング 浅間園
- 5月～6月 シャクナゲ園祭り
- 6月～7月 湯の丸高原つつじ祭り～東御市・孺恋村合同～
- 4/30・5/1 鎌原神社獅子舞春祭り



鎌原神社獅子舞秋祭りの様子

平成29年度
第2回
フォトコンテスト
受賞作品
会長賞
「子獅子の舞」
撮影：下谷直四郎

4/28(土)：浅間牧場トレッキングコースオープンイベント

浅間牧場に新しいトレッキングコースがオープンします。その際イベントも行なわれますので、是非ご参加下さい。コースの詳細内容は中面の特集をご覧ください。



6/3(日)：浅間園トレッキングコースオープン(予定)

浅間園に新しいトレッキングコースがオープンします。子どもから大人まで楽しめるコースとなっています。是非一度体験してみませんか。コースの詳細内容は中面の特集をご覧ください。



ガイド案内の受付しています

浅間山北麓ジオパークガイドの会の認定ガイドによる案内(有料)の受付をしています。ご希望の方は、右記、推進協議会事務局までお申し込みください。

[料金表]
ジオガイド 半日¥5,000～8,000
1日¥10,000～16,000

編集後記

寒い冬を越え、暖かい春を待ちわびる。白もきれいだ、緑が恋しくなってくる今日この頃です。ジオパーク通信次号は6月に発行予定です。

発行元：浅間山ジオパーク推進協議会

Mt. Asama Geopark Promotion Council
(新住所)
〒377-1524 群馬県吾妻郡孺恋村鎌原494-45
TEL/FAX: 0279-82-5566 URL: www.mtasama.com
E-mail: geo-asama@vill.tsumagoi.gunma.jp
Facebook: www.facebook.com/asamageopark
制作担当：広報・観光委員会



浅間北麓に誕生！ジオ＋トレッキングコース

■浅間山麓に台地の歩道、2コース新設されます！■

台地の歴史と自然と人のかかわりを学ぶ活動をしている浅間山北麓ジオパークエリア内に今春、探索に最適な歩道が2カ所にオープンします。まず、5月のGW前にオープンするのは、広大な浅間牧場(県営浅間家畜育成牧場)の中に新設された一周6.5kmの遊歩道。草原を中心とした、ほぼフラットなコースは開放的で歩行者にも優しいコースです。歩道の新設にともなってスタート地点も事務所近くの高台に整備され、車に入れるようになります。売店、トイレも備わり、ジオ＋健康トレッキングに最適なコースの誕生です。

少し遅れて、6月初旬にオープンするのが、町営浅間園からスタートする浅間山のふもとを巡る一週約6kmのコースです。こちらは荒々しい溶岩の台地を歩くコースで起伏もあり、ちょっとした山岳歩道のような変化が特色です。まさにジオの台地を歩くコースです。

2つのコースは、家畜の育成保護や浅間山に近いことから安全管理、自然保護のために当面、ガイド同行の入場になります。誕生する台地探索コースをジオパークガイドがご案内いたします。



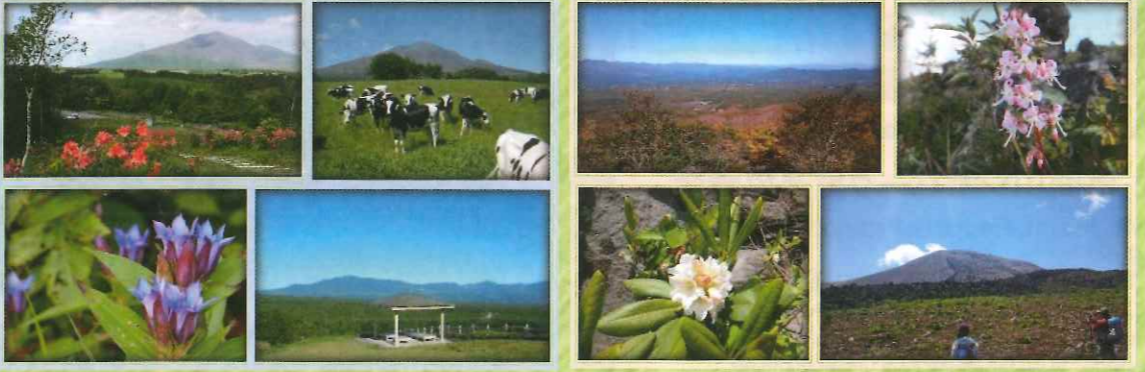
◆コース利用上のお知らせ◆

- ◇コース内の植物、岩石などを取らない・持ち出さない。
 - ◇両コースともペットは連れて入場できません。
 - ◇ゴミは持ち帰りましょう。
 - ◇夕刻から夜間の入場はできません。また天候等によって入場できない場合があります。
 - ◇認定されたガイドが同伴しないと入場できませんのでご注意ください。なお、ガイド料がかかりますので、下記ジオパーク事務局までお問い合わせください。
- 【浅間山北麓ジオパーク事務局:0279-82-5566】



◆浅間牧場新設コースの見どころ◆

- ◇黒斑火山活動等の堆積物によって形成された牧場景観です。
 - ◇北白川宮が日本の近代牧場を開設した地を受け継ぐ浅間牧場です。
 - ◇貴重な動植物が残る自然を見ることができます。
 - ◇日本のモータースポーツ発祥の地「浅間サーキット」跡地です。
 - ◇溶岩ドームの面影を残す天丸山の眺望などが見どころです。
- ※4月28日オープンイベントが開催されます。
5月のGWと夏休み期間はジオパークガイドが常駐しています。



◆浅間園新設コースの見どころ◆

- ◇1108年の噴火で流れ下った「上の舞台溶岩」台地を歩き、「下の舞台溶岩」(300年代)の様子を見ることができます。
 - ◇天明の鬼押し溶岩流(1783年)をまじかに観察できます。
 - ◇植物の植生遷移を見ることができます。
- ※コースは浅間山をまじかに見る場所なのでルールを定めています。
詳しくは浅間園:0279-86-3000
またはジオパーク事務局までお問い合わせください。